

海の日企画振り返り

[さやか](#) [Shin](#) [てじてじ](#) [みちこ](#) [里華](#) [早希](#) [トム](#) [ゆか](#)

さやか

①進学ガイダンスについて

私は今回進学ガイダンスを担当しました。PPTなどは、とむさんが作ってくださいました。そして私がそれに対してアドバイスをするという形でののみ参加でした。PPTを作ってくださったとむさんには、とても感謝しています。おそらく、私だけではあんな細かい数字を出すことはできませんでした…。

内容についてですが、西原さんも言っていた通り、最初から聞くことは何を答えていいかわからないと思います。だから、今回は実際の声を聞けた貴重な機会です。何事も最初から完璧もなければ、完璧に近い状態もありえないですよ。だって、相手のために作っても、相手の意見を取り入れたものでなければ、きっと独りよがりの悲しいおもいになりかねませんから！今回はまずどんな情報を盛り込めばいいかという話し合いから始まり、実現では「奨学金の返し方は？」「どうして大学に行くことが大切なのか？」という質問が出ました。特に後者の質問は、日本では当たり前過ぎて私にとっては難しい説明でした。当然が当然じゃない人に、当たり前だと言ってもわからないですし、それを当然と考えている私たちは素直にその考えを、何も考えずに受け入れてしまいます。今回は行くための理由を、行かなれば就職できないということを第1の理由に挙げ、第2の理由として経験や学びの広さが異なるということを挙げました。本当に私の母の実体験を、結構赤裸々に話しました。なぜなら、保護者の方には色々知ってもらいたかったからです。子どもたちにも幸せになってほしいし、広い選択肢を一緒に見つけていきたいと考えています。そのためには、周囲の大人が子どもたちのことを見ていかなければならないです。これは断言できます。子どもは一人では育たないですし、それを支えていく人がいなければ、その子はどんどん小さくなっていってしまいます。それを導くような人を子どもたちは求めていると思います。大人に限らず、もちろん友だちも同様の存在です。そんな人になれたらいいなって、夢を持っています。子どもたちには、多くの経験をして、色々な人と触れ合って、そこから知らず知らずに成長していきます。そのプロセスに私たちが携わっているということは、とても幸運です。その点については、Hiromiさんを始め松尾先生にも感謝したいと思います。今回の企画で得たものフィードバックして、次に活かしたいです！西原さん、ありがとうございました！そしてとむさんも本当にありがとうございました！

②1年生へ

ここは1年生に向けて書きます。特別コーナーを設けてしまいました。まず1つ伝えた

いことがあります！今回の企画、本当にありがとう！皆がいてくれて助かりました。それぞれが楽しみ、悩み、ある意味での青春の 1 コマを増やせたのではないかと思います。ここからが本題です。まあ、こうして、書いているのは伝えたいことがあるからなのですが（笑）伝えたいことは、それぞれはそれぞれのペースで歩いてください！ってことだね。いくら私が言ったところで、変わらない気がするんだけど、伝えないよりは伝えておこうと思います。

今のはずるは、すごく忙しいです。それだけ私の子どもの存在が知られて、活動の幅も広がって、色々な可能性が輝き（？）出しているのではないかと思います。だから、皆には色々と仕事を任せていますが！その仕事に対して、できた・できなかった、関わった・関わられなかった、完璧に自分の役割をこなせた・こなせなかったじゃないもあると思います。もちろんこれらは、フィードバックで必要なものにだし、達成感を感じる時にも必要だし。でもとりあえず、仕事ができなくて申し訳ないとかはいらないよ。だって、その人のペースに偶然にも合わなくて、偶然にもペースが合う仕事があって、それを率先してやってくれればいいし、その気持ちだけ、それだけで十分です。何かの時は、やれなくて残念だなんて気持ちを心に留める、もしくは次に頑張ろうぐらいの気持ちでやってください。結果？（学べること）は、目に見えるものばかりじゃないよ！そして、実は私たちは日々成長しているんだよ（笑）と私は思っています。

私自身も子どもたちが可愛くて、活動を続けている訳で、結構動機は単純です。それに暇なので。みんな、やりたいことは、ちゃんとやってね。大学生なんて、食欲に生きてナンボだと思います。ということで、何かあったらいつでも話してください。いつでも聞きます。もちろん、履修・日本語教員・教職その他諸々について相談も随時受け付け中です。

③企画全体を通して

松尾先生を始めばずるメンバー、月 4 の学生、太田の方、東女の広報課の方、ご協力してくださった方にまずお礼を言いたいと思います。創設当初の願いを叶えられたこともまた嬉しく思います。本当に楽しい時間でした。私たちはいつも行ってばかりで、来てもらえて本当によかったです。次回の課題はこれをどのように続けていくかです。これが一番重要ではないかなと思います。皆で何かひとつのものを作っていくというのは、素敵だし、大変だし、楽しいって感じです。また、大学側への国際交流の在り方のアピールは、ひそかに達成されているのではないかと思います。時間だけが経つのではなく、私たちの活動もしっかりと前進しています。

1つ反省点としては、機器トラブルが多くてそれに時間がとられてしまったことです。図書館のパソコンはフリーズするしとか色々ありました。次回は、そのような類の問題をさらに減らしたいです。

月 4 の学生の企画は、子どもたちが楽しんでくれたことが何よりも嬉しかったです。きつとおもうことや感じることは多いと思いますが、子どもたちが笑ってくれてよかったで

すという感想が聞ければ、私はさらに嬉しいです。

長くなりましたが、これで振り返りはいじょうです。

ありがとうございました。

Shin

海の日振り返り

2012年7月27日

松尾 慎

太田の子どもたちを大学に招きたい、そういう思いは 2010 年度からずっとあって、Hiromi とも初期メンバーの四居さんたちとも何度か話し合ったことがあります。それが今回こういう形で実現できたこと、本当に一言では言い表せないものがあります。また、2009 年度から折々、考えていたことは「太田の活動を授業にするか否か」でした。2010 年度、2011 年度は「太田の活動を単位を取るための活動にするのは避けたい」と思い、迷いなく太田活動と授業は切り離しました。しかし、今年度（2012 年度）は、「言語と社会の諸相 A」という授業に太田訪問を取り込みました。この理由は、少しはポルトガル語を学ぶ授業を作ってみたいという思いからでした。結果的に、ポルトガル語の学習はそれほど進みませんでした。太田の子どもたちを東女に招くという思いが実現しました。

この企画は、はずるメンバーと月 4 の学生のそのどちらかが欠けても実現することがなかったと思います。また、学内においても Jean-Pierre 先生や小田先生、そして、広報課からの支援も受けることができました。両先生には、子どもたちが喜ぶ特別な活動を準備していただき、太田の活動がこうして学内に広がっていく喜びを感じています。

一方で、6月30日のフェスタ・ジュニーナ、7月11日の奨励費研究の発表と16日の海の日企画が重なってしまったため、メンバーには大きな負担を掛けてしまいました。美智子さんとさやかさんの負担はかなり大きなものでしたし、愛さん、舞さん、1年生の4人、そして、院生のトム、卒業生の晴菜さん、てじてじ、四居さんなどそれぞれがかなりの仕事の負担量となってしまいました。

考えてみれば活動当初の2010年度の前期はもう少しのんびりとしていたと思います。当時は絵本の読み聞かせもしていませんでしたし、奨励費研究の発表も2010年度の後期に初めて行いました。と書いたところで、突然思い出しましたが、実は、当時もけっこう大変なことがあったなあと……。フェスタ・ジュニーナを記事内容とする「はずる通信」の

制作にかなりのエネルギーを割いた記憶があります。役割分担がうまく機能せず、相当に大変なことになり、確か、後期に全体会議を行い、各自の関わり方を述べていったのではないのでしょうか。と考えると、その時々、それなりの課題を抱えながらばざるは進化してきたようですね。

話が行ったり来たりしますが、2012年度の現在では、ばざる通信をある程度、効率的に制作したり、他の仕事も少しシステムティックになっている部分があるかと思いますが、「やるべきこと」、「やりたいこと」の総量が明らかに増えています。8月末からは、「保護者向け日本語学習支援」を始めますし、10月21日には進学ガイダンスを実施しようとしています。また、O Projeto Expressão Oralも2013年の2月、3月あたりの最終発表会に向けて動き出しました。さらには、VERA祭もあります。特に、保護者向けの日本語学習支援と進学ガイダンスは、これまで予定されていなかった企画です。メンバーの数は限られていますので、どのように関わっていくべきか考えなければなりません。でも「やりたいこと」だからやってみたい！という発想になってしまいます。このあたりを、Vamos Papearとばざるを結ぶ一種のコーディネーター的存在としての私はどのように整理していくべきか考えなければなりません。活動を終えた今、みなさんが忙殺されていた様子を思い返すとそう思います。

話が海の日企画への焦点からずれてしまいました。7月16日の一日、子どもたち（まゆみちゃん、Milenaちゃん、あゆみ(Larissa)ちゃん、マテウス君）は本当に楽しそうで笑顔が弾けていましたね。こうした機会をまた持ちたいなと思います。皆さんはどう考えるかな？そして、将来、私たちが関わった太田の子どもの中から東女生になる子どもが登場することを夢想したら、とっても愉快になります。彼女たちが持つ個性は東女に対し、大きなインパクトをもたらすでしょう。そういう意味でも、日本社会からいい意味での学びは得て欲しいけど、ブラジル社会、ブラジル人としての特質を忘れることなく、日本社会にインパクトを与えられるような大人に成長してほしいなと思います。それを実現するための一つの場が母語保持教室、つまり、Vamos Papearなんだと思います。

てじてじ

2012年7月16日（月）海の日企画 振り返り

なにより太田から10名の方が東京女子大学に来てくださったことがうれしかったです。そして、子どもたちの笑顔がたくさんみられたこと、これだけでも意味があったと思います。そして、子どもたちの笑顔から力をもらいました。本当に来てくれてありがとうという気持ちでいっぱいです。

今ではすっかり忘れていましたが、海の日企画は当初、子どもたちによる自己表現の場として考えられていました。それから二転三転し、子どもたちに大学を体験してもらおうという企画になりました。企画から実現まで振り返るといろいろな思いがありますが、「将来を考える」という大袈裟なものではなく、なんとなく大学って面白そう、自分も大学生になってみたいなど少しだけでも思っていてくれていたらいいなと思います。

また、今回の企画をきっかけに、私たちが何者であるかについても少しは知ってもらえたのではないかと思います。そう考えると、反対に子どもたちの通う小学校や中学校も行ってみたいという思いが湧いてきます。また、ピタゴラスについても、フェスタジュニアや移動領事館のときの様子しか知りません。普段のピタゴラスがどんな様子か知りたいです。Vamos Papear 以外の場所にいるお互いの姿を知ることによって、関係がぐっと近くなる気がします。このようなことも、Vamos Papear の活動がより濃くなる要素ではないかと思っています。

私は、ばずるメンバーの様子しかわかりませんが、企画から準備段階まで、各担当の人たちがそれぞれに精一杯頑張っているの伝わってきました。そんな中、私は今回の企画にどのような関わりができたのだろうと考えています。

私は、表向きはキャンパスツアーとクイズラリーを担当していることになっていましたが、実は、それほどの働きをしていないのです。ゆかちゃん、さきちゃんのサポートという形で関わっていましたが、特にキャンパスツアーに関しては完全に二人に任せていました。完全に二人でやりきったと思います。大勢の人を率いて、案内するのは大変だったと思います。美智子ちゃんに助けてもらった場面もあったと思います。でも、それでも、頑張っている様子を近くから、遠くから見ることができました。

クイズラリーに関しては、何度か三人で集まって相談をしました。たった30分の企画ですが、本当にあれこれアイデアを出し合って作った「作品」です。相談する時間も、小道具を準備する時間も、楽しんでできました。子どもたちがどう反応するか、全く予測できなかったのも、直前までドキドキでしたが、「楽しかった！」と喜んでいる様子を見て、本当に嬉しかったです。そして、その嬉しさを三人で共有できている感じも私には嬉しかったです。楽しみながらやったことは、相手にも伝わるんじゃないかなあと思いました。普段、私は色々なことを楽しむという余裕がなく、遊び心を忘れていたような気がします。「楽しみながら学びが広がる」、改めて名言だなあと思いました。

海の日の日、クイズラリー以外では、少し遠くから全体を眺めていることが多かったです。そんな中、先日ホームステイをさせていただいた Marlyさんと少しことばを交わせたのが私には大きい出来事でした。Marlyさんも私も同じ青いTシャツを着ていること、8月25日の日本語学習を楽しみにしていること、代々木公園のブラジルフェスティバルのことなど、身振り手振りや簡単な日本語でコミュニケーションをしたのですが、この時、ポルトガル語で話したいと心の底から思いました。もちろん、ポルトガル語という課題は、Vamos Papearに参加してからずっと頭にあります。でも、この日 Marlyさんともっと色々

な話がしたいという切実な動機が生まれました。

私のポルトガル語学習動機だけでなく、この日、色々な場面で、みんなが何かのきっかけになるような要素を手にしたのではないかと思います。

みちこ

2012.7.16 海の日企画振り返り

今回の振り返りでは、準備（全体）・準備（担当企画）・当日・今後に向けての4つの視点で振り返りたいと思います。

1. 準備（全体）

今回は私がリーダーとなって、海の日企画を進めていきました。まずはそれぞれの企画ごとに担当者を決め、その方々の進行状況のチェック、進行に問題があれば皆で解決できるようミーティング資料としてまとめ、必ずみんなで共有できるようにしました。

また、ばずるメンバーだけでなく、月曜4限の言語と社会の諸相Aの学生には、最後の体を動かす活動の企画や、大学生の一日紹介などに携わって頂きました。

ほかにも私はこの企画のチラシ制作、配布、当日の進行表の作成、太田の方向けの当日のしおり作成などを行いました。

また進行・運営だけでなく、当初から予定していた大学のパンフレットや大学グッズ、お土産写真や子どもたちのお菓子もすべて事前に準備できたことは、活動の満足度が更に高くなったと思います。

今後も、「どうすれば子どもたちが喜んでくれるのか」を中心に、活動が計画できればと考えています。

2. 準備（担当企画）

私は全体の運営の他に、ジャンピエール先生と小田浩一先生の模擬授業の準備を行いました。

両方とも事前に2~3回の打ち合わせを行い、準備や進め方など、先生方と小柴里華ちゃんと綿密な計画を立てました。当日時間の関係で準備したすべてのことを消化しきることはできませんでしたが、ほぼ予定通りこなすことが出来ました。

ジャンピエール先生は最初本当に自分にできるのかと心配なさっていて、みんなで方法を模索しながらの授業でした。本番ではみんな英語で自然と会話が出来ており、改めて私たちの思惑を飛び越えて子どもたちは吸収し楽しんでくれるのだと思いました。

小田先生の授業では、準備の段階から面白くなるのではと思っていましたが、カメラを使ったアクティビティが特に楽しんでもらえ、あの笑いの渦は思い出ただけでも心地い

いです。

きちんと小田先生は「このおもしろいことは何に使えるんだろうね?」という問いかけをしてくださったことで、「学び」にもつなげることが出来たのかと感じています。

3. 当日

時間をかけた準備のかいあり、当日は特に大幅なミスなどはありませんでした。

さきちゃんがクイズラリーの後にアイスクリームを買ってくれたことも、子どもたちの良い休憩時間となり、機転の利くことをしてくれるな!と勝手に嬉しくなっていました(笑)

想定外だったのが二点あるとすれば、さやかちゃんも書いてくれた大学生の一日企画の際にすぐパソコンが準備できなかったこと、保護者ガイダンスとクイズラリーの時間が足りず、小田先生の授業と月4企画にもつれ込んでしまったことです。

機材に関しては、言語のオフィスが12時半にならなければ開かないことが原因だったので、今後機材に関しては事前の確認を更に綿密に行っていくべきだと感じました。ただ、パソコンが届かず子どもたちを待たせてしまっている時間も、卒業生の方々が子どもたちと会話で時間をつないで下さり、とても助かりました。こうした、何かトラブルがあっても皆でフォローし合えるチームワークは3年目の活動の賜物だと思いました。

時間が押したことに関しては、最初から予期していたことだったので、月4の学生には活動をやや縮小してもらったものの、大きなトラブルにはならなかったので、皆さんが臨機応変に動けた良い連携プレーだったと思います。

ただ保護者の方々は月4の活動には参加せず、下の自動販売機の前で休んでいらっしやいました。私はそこで保護者ガイダンスの感想や大学の印象など、保護者の生の声を聞くことが出来たので、大変有意義でした。ただ、後から子どもたちが月4のアクティビティを大変楽しんでいる様子をビデオで見て、保護者の方が疲れていたとしても体育館まで連れて戻り、子どもたちと月4の活動を見せた方がよかったのか、どちらが正解だったのかはわかりません。

最後にはお土産や写真も喜んでもらえ、今日一日体験した東京女子大学を持ってかえってもらえるような、私もそんな喜びを感じました。また、逆に子供から黒板のイラストとコメントのプレゼントももらえて、その表情がとても生き生きしていたことが忘れられません。

4. 今後に向けて

私自身、とても達成感の得られた企画でした。「誰かに本当に喜んでもらう」というのは難しいかもしれませんが、それが実現でき、自分たちの企画は間違っていなかったのだと少し自信にもつながりました。

大学では今後、海の日企画のような活動が、「授業見学でぜひ」と堂々とお願いされるぐ

らの活動にしていきたいです。ただ、小田先生・ジャンピエール先生・多くの言語科学専攻やコミュニケーション専攻の先生、広報課の方々には、結果的にばざるの活動をよく知ってもらえ、その一歩が踏み出せたのではないかと感じています。

今後この活動がどこに向かっていくかは予想もできませんが、更に私が得意とする広報としての動きも強化していければと思います。

最後に、一年生の活躍なくしては何もできませんでした。大学生の一日、キャンパスツアー、クイズラリー、模擬授業、どれをとっても一年生の力があってこそこの企画は成功しました。本当にどうもありがとうございました。

また私自身至らない点が多くあったと思いますので、自分で気づいたところ、また皆さんからも指摘頂き、次の大きなイベント、VERA 祭に向かってみんなでまたより良い活動になるよう努めていければと思っています。

皆さんとまた楽しい充実した活動が出来るのを楽しみにしています。

里華

海の日企画、お疲れさまでした。無事に終わることができて、ほっとしています。

私は、模擬授業を美智子さんと担当し、ジャンピエール先生、小田先生それぞれと打ち合わせ、準備、計画をしてきました。打ち合わせ段階から、美智子さん、先生方にはたくさんフォローしていただき、本当にありがとうございました。当日のジャンピエール先生の模擬授業では、小学校で英語を学んでいるということですが、子どもたちが楽しみながら学べるようにカードやボールを用いた授業で、子どもたちは英単語に難なく触れていました。小田先生は、触覚、視覚や聴覚を用いた子どもたちが興味を引くような楽しい授業を計画してくださいました。子どもたちは、楽しみながらも、先生へのお礼では、学んでいるという意識もあることに感心しました。楽しみながら学ぶ授業の凄さを感じました。

当日の全体では、私自身授業があり、海の日企画と授業を行ったり来たりで、学校中を走り回ってバタバタしていたなあと思い返しています。当日はバタバタしていて、少し余裕が無かったのですが、子どもたちの笑顔を見て、「楽しかった」という言葉を聞けて、とても嬉しかったです。そして自分自身も子どもたちとクイズラリーを一緒にしてとても楽しかったです。

今小学生である子どもたちは、将来どんな大学生になるのだろうと思い、自分が小学生だった頃を思い返しました。私は、年の離れた兄が大学生活を満喫していて、大学生は楽しいイメージを想像していました。この企画に参加してくれた子どもたちが、前向きに思い描いてくれたら嬉しいなと思いました。

早希

私が海の日企画から準備と臨機応変な態度の大切さを学びました。今回はキャンパスツアーとクイズラリーという二つの企画の担当をさせてもらい、不安もたくさんありました。何回も打ち合わせをして、何度も案を練り直して、実際に試しクイズラリーをやって…結構時間をかけ、正直大変だな、と感じることもあったのですが、当日の子どもたちの「楽しかった！」という声を聞いたときにはとてもうれしかったです。しっかりと考えて準備をすることは大変なことだけれど、その分得られるものは大きいなぁと改めて経験することができました。しかし、手島さんに台紙作りを全てお願いしてしまったり、(キャンパスツアーとは関係ないですが、) 広報課との連絡をさやかさん、優花さんにまかせっきりにしてしまったりと自分の無責任さに反省する部分も多くあります。これから責任をもって自分の担当はやっていきたいと思います。

また臨機応変な態度の大切さも一つの大きな収穫でした。私は臨機応変に行動するのが本当に苦手で、予定通りにいかないと何もできなくなってしまうのですが、今回もそうでした。グループ分けをするのにも自分から始められず、美智子さんを頼ってしまいました。キャンパスツアーも必死に予定通りにしたくて皆さんを振り回してしまいました。実際に子どもたちが何をしたいか、何を感じているか、ということは予定や予想通りにいくはずはないのだから無理やり予定に当てはめようとするのは子どもたちにとっても負担となるだけでしかないのだと気付きました。これから少しずつ臨機応変な態度を身につけていけるよう努力していきたいと思います。

正直、私はいまいちこの企画の趣旨を理解できず取り組み始めました(すみません)。しかし振り返ってみると、この企画で私は月4の学生さんや飛び入り参加の学生さんや小田先生との新たな出会いや、新たな発見がありました。子どもたちも私のように初めての場所へ来たり、知らなかった人と仲良くなったり、新しいことを知ったりとたくさんいい経験ができたのではないかなと思います。この企画がなかったら絶対行くことのなかったであろう私たちの学校で新しい経験をすることができたということがこの企画の一つの成果だと私は感じました。日本での将来について考える機会が増えたと同時に、何か、どんな小さなことでも新しい発見として子どもたちが喜んでくれてとても嬉しく思います。これからも今回のような子どもたちも私たちも新しいことを経験しあえる企画を続けていけるといいなと思います。

トム

海の日企画の振り返り

海の日企画についてですが、私としてはこれを実行したことで、あらゆる面で現在の限界と今後の課題が明らかになった、と思います。いくつかに分けて振り返りをします。最後の進路ガイダンスだけ異様に長くなってしまいましたが・・・。

■全体的な感想

企画全体に対しては、まだ1回目なので参加人数が少ないのは当然だと思っていました。とりあえず今回は、来てくれた方たちには楽しい、よかった、という感想を持ってもらえてとてもほっとしました。逆に、こうした進路や将来について考えてもらうための取り組みは、積み重ねて実行していくことが重要なので、今回だけで終わらせずに継続していくのが必要だと思います。負担は少なくない企画ですが、これから回を重ねることで企画自体も改善されていくと思いますし、より多くの来てもらえるようになると思います。そのためには、(私自身、振り返りが遅くなってしまったのですが)反省をきちんとして、今回の経緯や準備の方法、記録など、来年以降参考になるもの、使い回しがきく資料を残しておくことが大事だと思います。

あと、今回の企画では私は主に進路ガイダンスを担当し、逆に言うとそれ以外の準備は殆どしませんでした。全体を取り仕切ってくれた美智子さん、さやかさんの頑張りは見ていて頭が下がりました。1年生が企画だけでなく、外部との交渉にも、色々仕事をしていただき、まいさん、四居さん、手島さん、松尾先生、月4のみなさんと、本当にみんなの力がなければできなかったことでした。新参の私が言うのもなんですが、ばずるがここまでエネルギーッシュというか、力のあるグループだとは自分でも思っていなくて、私個人としては大変だったけど充実しました。また、広報課の方、先生方の協力があったからこそ企画だったと思います。みんな書いていましたが、ああしてばずるの外部にまで活動の輪を広げていったことの意味はとても大きいと思います。日本の大学の中で、「日系ブラジル人」をキーワードにこれだけのネットワークを作れたのは、意味のあることだと思います。大学の偉い人たちにも少しは認識して頂けて、数人でしたが自由参加の方も来てくれたし、この企画は大げさではなく、大学を変えていく力があると感じました。個人的な希望としては、せっかく東女という場所を舞台とした活動だったので、それを大学や地域にもっと還元していきたい、と思いました。この企画は大学や他の学生さんの利益にもなりうると思います。あと、企画に触れてくれた人たちに太田のこと、日系ブラジル人の人達のことに興味を持ってもらいたいのはもちろんですが、太田まで行かなくても東女には留学生が、周辺地域には外国人住民は沢山いるので、そういう自分の足元にも関心を持ってくれる人が出たらいいな、と思いました。

■個人的な感想

今回の企画は個人的にとっても嬉しかったです。今まで太田には行っていましたが、特にぼずるのために役に立ったという気がせず、「仕事をした」と感じられることはありませんでした。自分的にその点について不満足だったので、今回、進路ガイダンスをほぼ任せてもらえて、初めて本当にぼずるの一員になれたかな、という気持ちになりました。

また、フェスタジュニアの振り返りでも書きましたが、Vamos Papearに参加していても、日本人でポルトガル語ができない自分がいることが必要なのか、何の意味があるのかという問題がまだ自分の中で完全に納得できないでいます。今回の進路ガイダンスは、私が日本人であること、ついでに外国人の中学生に進路サポートしてきた経験があることが、少しは生きたというか、自分にできることで役に立てたのではないか、という気持ちです。

■進路ガイダンスについて

まず、進路ガイダンスについては、本当にさやかさんのおかげでできたと思います。私は資料の用意はしましたが、教室の予約やパソコンの手配などの実務的な面は殆どさやかさんにやってもらってしまい、私は逆に迷惑をかけてしまったのではないかとことも多かったです。当日も、さやかさんには機材のこと、奨学金の説明や、大学に行く意義の話になった時、重要な意見を言うてくれて助かりました。さやかさんだけでなく、その場にいたはるなさん、西原さん、四居さんにも色々助けてもらいました。この企画は、色々な人の力でできたことだと思います。

内容に関して言えば、今回は初めての試みだったので、沢山の方に来てもらうことはそれほど期待していなくて、今回来てもらった人に満足してもらって、次回以降につなげられるようにしたいと考え、そのために今回はできるだけ満足度の高いパフォーマンスをしたい、という気持ちで準備していました。それで気合いが入っていたせいもあり、私自身の持つ「ガイダンス」のイメージのせいでもあったのですが、きちんとしたプレゼンテーションをしなければいけない、私はあくまでも情報を提供する立場でなければならないと思っていました。しかし、実際にやってみると、機材の不具合でプレゼン的な形にならなかったせいもあるのですが、私が説明していた前半よりも、比較的自由に話していた後半の方が盛り上がったし、より生に近い意見が聞けたように思いました。説明する土台として資料や台本は当然必要だし、それは聞く人数が多い程そうなります。でも私たちのガイダンスは、日本人が「先生」になるのではなく、対等な立場でやっていくことができるのではないかと、思いました。海の日企画自体、東京女子大学に呼ぶという形なので、私の中ではあくまでもぼずるが提供してお客としてきてもらうという意識がありました。でも、こちらはホストであちらがゲスト、というのではなく、同じ活動をする仲間として、あくまで今回は場所が東京で、主に企画面では東女側が責任をもつんだけど、(太田の人たちが東京に来ることも含めて)一緒にこの企画を作るのだ、という気持ちが最後に芽生えました。具体的な形は自分でも全く見えていませんが、太田と東女で、対話を通して互いに意見や

情報を出し合ってつくっていったら、そしてお互いのためになることをできたらいいのではないかと思います。

当日のプレゼンについては反省点も多いです。さやかさんも書いてたけど、プロジェクターとパソコンの準備がうまくいかなかったことは事前の確認不足でした。こちらの説明の仕方を通訳のやり方についても、改善していかないといけないと思います。

PPT に関しては、まだまだ改善の余地があると思います。単純に見せ方をもっと変えること(数字や数式の見せ方など)も必要だし、内容ももっとつめていけるとと思います。今回意見が出ただけでも、奨学金の返し方が知りたいという意見が出ましたが、そこはフォローしていませんでした。次にやる時は、説明する内容については、実際に保護者の方からこういうことが知りたい、ということを知りたい、ということを知りたいと思います。あと、単純にブラジルの学校や社会制度についてもっと知りたいと思いました。進学ガイダンスでは、外国と日本では教育制度が違うので、超基本的なことから説明しないといけないというのは常識だと思っていたのですが、考えてみると私は日本の教育制度を基礎から解体することはしていても、相手の国の制度については詳しく知らない、と改めて気付きました。ブラジルの事情を知ることで、よりよくしていける点もあるのではと思いました。

実際やる前はとても不安でしたが、保護者の方や **Hiro**mi さんからは役に立ったという感想を頂けてほっとしました。特に、**Erica** さんが今度は太田でポルトガル語と日本語のバイリンガルでガイダンスをやりたい、と言ってくれてとても嬉しかったです。次がいつになるかわからないし、その時私がどうなっているかもわかりません(おそらく東女はもう卒業しているだろう・・・と)が、できたらその時は自分も参加したい、と思いました。

ゆか

海の日企画振り返り

1年 石堂優花

今回海の日企画に携わって、初めて自分からはずるの活動に参加させていただきました。今までは先輩方について教室を訪問したりするだけだったので、こうして企画を練って、運営する側にいるのは新鮮で、先輩たちの多忙さが少しわかった気がします。

子供たちにたのしんでもらうにはどうすればいいのか、さんざん頭を悩ませて早紀ちゃん手島さんと話し合ったりするのは楽しかったです。何かを成功させようと一緒の事に取り組むって楽しいんだな、と思いました。

そういう思い入れもあって、前日には「ここがこうなって…ああなって…」とかいろいろ考えていたのです。ところがいざ当日になると全然思い通りに行かない。太田の方々はそのごくのんびり歩くと、キャンパスツアーのマニュアル通りになんか行かない。小田先

生の授業の前も大幅に時間が遅れてしまっていたけど、太田の人たちは全く気にしていない。ちょっと時間おしてます、なんていってもまず急ごうなんてことしません。

正直かなり戸惑いました。でも、あ、そうか。感覚が違うんだってこうやって自分から携わってみて今回初めて気づきました。考え方が違うんだ。って。

子供たちはどうしたら喜ぶんだらうって考えに考えてたクイズラリーも予定どおりなんかいきませんでした。スタンプ押し忘れちゃたし。図書館では制限時間設けるの忘れたし。

でも子供たち本当に楽しんでた。そんなこと気にも留めてなかった。細かいこと気にせずとりあえずその時その時が楽しければいいじゃない。そんな感じが漂っていて、あそっかこれがブラジルか！時間とか全然きにしないんだ！とりあえず細かいこと抜きなんだ！

とピンと感じました。これは新しい発見でした。なんか違うな、と漠然と思っていた違いがはっきりわかった気がします。なんでもとりあえず楽しんじゃう。実は今回私は「少しでもぼずるのお手伝い如果能したら、役に立てたら」って思ってた所もありました。でもぼずるってそういうところじゃないんだな、と思い直しました。役に立つためにいるんじゃないかと一緒に楽しむために活動するところなんですね。だれかのためじゃなくて自分が楽しくて、太田の人とかかわるのが楽しくて活動しているところなんだ！と。そしてそれが気が付いたら異文化との出会いになっているんだな、と。

正直小さい子供と話したり、遊んだりすることが私は苦手でした。でも太田の子供たちって本当に素直で明るくて純粋で、これからお話したりできたら本当に楽しいと思う。だから私はこれからもぼずるとしてちょっとでも関われたらいいな。と今回思いました。難しい話もあるけど、とりあえず今のところはそういう思いで参加していきたいです。といってももう半年は過ぎてしまっているのですが・・・^^;

こんな私ですがよろしくお願ひします。なんだか支離滅裂な文で申し訳ありません！